No.２６４０

## 古代を連想させるロマンチック？な山
## 雨 飾 山

実施日　2013年10月12日(土)～13日(日)
天　候　1日目(前泊) 雨　2日目 晴れ
ﾘｰﾀﾞｰ　遠井　謙策
参加者　鈴木政三、山崎富美恵、鈴木恵美子、石附智江、遠井謙策、中村友子、伊藤久雄、宇野輝代、小名秀鋭、徳山敬子、石附智子、瀧澤きよの、G(石井敦子)
計１３名
費　用　交通費20,800円(新宿起算・タクシー含)、宿泊費9,000円
合計29,800円
ﾀｲﾑ　10/12　糸魚川駅(14:30ﾀｸｼｰ)雨飾山荘(15:10)
2日目　山荘(5:56)難所のぞき(6:28－6:42行動食)中の池(8:45)合流点(9:32)雨飾山山頂(10:07－10:26)山頂下(10:48－11:20昼食)笹平(11:35)荒菅沢(13:12)ブナ平(14:02)雨飾高原ｷｬﾝﾌﾟ場(14:56ﾀｸｼｰ)南小谷駅(15:40)

「雨飾山」なんとも雅な、夢をみるような、心ときめく名前ではないですか？
でも初日集合地の糸魚川駅に着いた時は、全国的な好天に背を向けるような冷たく打ちつける雨。いくら名前が雨飾りだからって、それは無いでしょう！でもそんなひねくれに多少惹かれる面もある私なのですが・・。
名所巡りツアーも中止で、フォッサマグナ館だけ訪れる。岩石の神秘を学び翡翠の魅力にロマンを感じて、早々にタクシーで雨飾山荘へ向う。
山荘の雑記帳にはこうあった。「これで6回目の挑戦だったけど又嘆きの雨、でもいつかは必ず・・！」そんな人もいるのだ。そしてそれ程魅力を持つ山なのかもと、期待が高まった前日の夜。豪華な食事と露天風呂付きの大満足の温泉宿だったが、豪雪に耐える極太の梁に支えられた屋根からは、夜が更けても相変わらず雨音が聞こえ続ける。不安の中それでも皆いつの間にか白河夜船。

明けて日曜日。見上げる空には何と満天の星が瞬いている。「よっしゃー！」。入念に準備体操、山荘横から梶山新湯登山道を登り始める。
端から急登は覚悟の上。ゆっくりとしっかりと一歩一歩進む。難所のぞきで朝食、左手に海谷三山が見事、しかし紅葉は暖かすぎた初秋の為かもう一つ艶やかさに欠ける嫌いが。それでもナナカマドの真っ赤な実や白樺の鮮やかな白との対比が目を楽しませる。振り向くと糸魚川の市街や日本海が遠く霞んで美しい。登り続けること3時間半、やがて一行は笹薮の中の小谷側からとの合流点に到着した。

ここからはひと登り。笹の平原の向うに、太った恐竜が臥せっているような特徴のある勇姿を見つけた。這い上がる登山道には人人人。
赤青黄色の衣装を着けた蟻たちが行列を作っている様に見える。山頂を間近に渋滞の試練。すれ違い出来ない所では、時折り上り下りの人達で言い争いも。あんな時、良識を越えない範囲で図々しく

ならないと何時までも進めない。心のバランス感覚を磨く訓練になりそうだ。

極めた頂上は猫の耳の双耳峰。北峰には石仏、南峰には標柱と三角点。どちらも大混雑で記念写真を撮るのも一苦労。こんな所でも団塊の世代は競争を強いられるのか！しかし眺望は360度。雪を冠った白馬連山に鹿島槍、そして槍・穂高までもが遠くにくっきり。高妻山や戸隠の鋸歯が見え、活火山の焼山の奥には火打山。至福の時だ。でも吹き始めた西風が冷たい。溢れ来る人の群れから逃れるように早々に下山、避雷針が立つ山頂下の陽の当たる小広い場所で昼食を取った。

帰りは、笹平を通って小谷温泉へ下りるルートだ。おっと出だし直後のはしごで、交互通行の為更なる大渋滞。待ち時間に、ついあまりの青空に誘われ松田聖子の青い珊瑚礁を歌い出してしまったら、周りの人から“嘲笑の”拍手を貰ってしまった。ああ恥ずかしい。

はしごを過ぎ岩や根っこの道をどんどん下っていく。滑らぬよう気を使う。足や腰がヘコヘコ言い出す。でも、もう渋滞はない。紅葉もこちら側の方が幾分進んでいそうだ。荒菅沢に出て小休止。そそり立つ布団菱を見上げる。沢の水が冷たくて気持ちが良い。

更に下る。今度はブナの林が登場してくる。リョウブやハウチワカエデも彩りを添える。長かった下りもやがて木道が現れ平坦になり、タクシーが待つゴールのキャンプ場登山口へ。読み通りの15:00ジャストに到着。

南小谷駅からは最終目的地により北回り南回りに別れ、それぞれが(多分)節度を弁えた車内反省会で盛り上がり、感動の思い出をお土産に帰宅した(ことでしょう)。

最後に、連れて行った若いゲストを皆様優しく可愛がって頂き有難うございました。感謝致しますと共に御礼申し上げます。

（記＆写真・遠井　謙策）

（写真提供・伊藤　久雄）